

令和 8 年 8 月 20 日

門信徒 各位

潮見寺門信徒会 会長 平国寛己

秋の彼岸・戦災戦死者追悼法要について

大変な残暑の中ですが、皆様方いかがお過ごしでしょうか。

さて、下記の通り標記のご法要が勤修されます。今回は、東市来の盈泉寺から佐藤先生をお招きしてのご縁です。

浄土真宗では、聞法を第一とします。聞けば聞くほど“おかげさま”を感じ、出遇えば出遇うほど有難い仏法です。手を合わす中に、聞こえるままに、阿弥陀さまとの出遇いとすくいがあります。

どうぞ、お誘い合わせの上、お参りください。

記

- | | |
|--------|----------------------------|
| 1.と き | 令和 8 年 9 月 19 日（土）午後 1 時から |
| 2.おつとめ | 仏説阿弥陀経 |
| 3.ご講師 | 佐藤 一樹 師（東市来 盈泉寺） |

☆ 8 月 8 日の迎盆準備・荘厳におきましては、本当に多くの方々にご協力いただきありがとうございました。

☆ “月のことば”を配布します。

☆ 法要前の掃除・準備を法要当日 9 月 19 日 8 時より行います。お手伝い頂ける方は
よろしくをお願いします。お聴聞させて頂くみなでご法要を作りましょう。

< 予告 >

- 秋の永代経・さつま開教 150 周年法要は 10 月 24 日（土）北隅組 福應寺 福島達也師を迎えて勤修します。

伝道

一人の人生であっても 決して独りではなかった（藤澤量正）

私たちは人生の歩みのなかで孤独を感じずにはおれないことがあります。現実の苦悩を、他の人に成り代わってもらうことはできません。また、どれだけ相手のことを思っても、相手に成り代わって悲しみ苦しみを引き受けることはできません。

人は一人で生きているのではない、そのように先人方はいただいてこられました。自分一人の力で生きることなどできない、支え合って生きているのであって、他の方のために何かをするのは、まわり回って自分のためになることである、という大切なことを受け継いでこられました。

親鸞聖人が「正信念仏偈」に「**極重悪人唯称仏 我亦在彼摄取中 煩惱障眼 雖不見 大悲無倦常照我**」と明らかにされたのは、自らの姿を悲しむとともに、私を摂め取って捨てない仏の思いがあることを、大悲のはたらきのなかに感じ取られた喜びだったのです。

人という字は、一人の人生であることを表している形でした。ですが、私たちは相手を思い、悲しみ、慈しむことができます。そして、他者から思われ、悲しまれ、願われているのです。

仏さまの大悲に照らされて、仏さまとともに歩む人生を恵まれている私です。悲しみは消えてなくなるわけではありませんが、一人の人生であっても、決して孤独で寂しい歩みではないことを、仏さまの大いなる慈悲のなかに感じ取らせていただけるのです。

たとえ私が忘れても、常にはたらき続ける阿弥陀さま。「南無阿弥陀仏」のお念仏によって、阿弥陀さまが私の声となって、私の所に至り届いてくださいます。そして、阿弥陀さまは私に寄り添い、誰よりも強い味方になってくださるのです。

